

出エジ9 出エジプト記6章28節～7章13節

「パロとの2度目の対決」

1. 文脈の確認

- (1) モーセはエジプトに入り、活動を開始した。
- (2) イスラエルの民は信じた。
- (3) パロは、モーセの要求を拒否した。
- (4) 結果は、より過酷な労役
- (5) 民はモーセを憎んだ。
- (6) モーセにとっての信仰の危機が訪れた(出5:22～23)。
- (7) 神はモーセに答え、再度彼を派遣しようとされた。
- (8) モーセとアロンの系図が挿入句のようにして出て来た。

2. メッセージのアウトライン

- (1) モーセの信仰の危機(6:28～30)
- (2) 危機を乗り越える(7:1～7)
- (3) パロとの2度目の対決(7:8～13)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 信仰の危機の本質を理解する。
- (2) 神の力を体験的に知る。
- (3) 悪魔との戦いの本質を知る。

このメッセージは、私たちが新しい信仰の次元に飛躍するためのものである。

I. モーセの信仰の危機(6:28～30)

1. 元の文脈に戻っている。

- (1) 系図が入っていた(6:14～27)。
 - ①レビの家系からモーセとアロンが出ている。
 - ②この系図は、何世代かの省略がある。
 - ③6:18 ケハテとアムラムの間に省略があると思われる。「子」とは「子孫」。
 - ④モーセとアロンは、アブラハム、イサク、ヤコブ、レビの子孫である。
- (2) 6:12と6:30は同じ。

2. モーセが信仰の危機に陥った理由

- (1) 神には約束を守る力があるのか。
- (2) 神には約束を守る気があるのか。
- (3) 自分はなんのために遣わされて来たのか。
- (4) 事態が悪化しているのに、神はなぜ動こうとしないのか。
- (5) 要約すると、モーセの期待（予想）と神の計画の間にギャップがあるのである。

3. 神が見えなくなると、自分の弱点が大きく見え始める。

- (1) 「私は口べたです」（無割礼の唇）
- (2) 出4：10で語っていた言い訳である。

II. 危機を乗り越える（7：1～7）

1. 神の忍耐

- (1) 神はモーセを見放してはいない。
- (2) 再びモーセの不安に答えている。
 - ①兄アロンが代弁者となる。
 - ②「イスラエル人を去らせよ」というメッセージをパロに語る。

2. 聖書の啓示のパターンが見られる。

- (1) 神 → 預言者 → 民
- (2) モーセ → アロン → パロ

3. 神は、これから起ころうとしていることを再度モーセに啓示する。

- (1) パロは心をかたくなにするであろう。
- (2) その結果、エジプトは大きなさばき（しるしと不思議）を受けることになる。
 - ①エジプト全体にさばきが下る理由は、反ユダヤ主義政策が採用されたから。
 - ②また、エジプト人全員がその政策を実行するようになったから。
- (3) 【主】はイスラエル人をエジプトから連れ出される。
- (4) エジプト人もまた、「わたしが【主】であることを知る」
 - ①奴隷の神が彼らの神々より強いことを知るようになる。
 - ②【主】とは契約の神の御名
 - ③出エジプトが成就するかどうかは、【主】の名誉がかかった戦いである。
 - ④エジプト人は、イスラエルの神が契約を守る力を持った方であることを知る。

4. モーセは信仰の危機を脱した。
 - (1) 7 : 6に勝利の秘訣がある。

「そこでモーセとアロンはそうした。【主】が彼らに命じられたとおりにした」
 - (2) 神のプログラムを理解した。

5. モーセは80歳、アロンは83歳
 - (1) 2人の先祖たちの平均年齢は、130～140歳。
 - (2) D・L・ムーディーは、モーセの人生をこのようにまとめている。
 - ①最初の40年間：パロの宮殿で自分がひとかどの人物であることを学んだ。
 - ②次の40年間：荒野で自分が何者でもないことを学んだ。
 - ③最後の40年間：神が無力な者を用いて業を行う方であることを学んだ。
 - (3) 80歳という年齢をどう見るか。
 - ①経験、判断力の面で充実している。
 - ②自分を証明する必要がなくなっている年齢ではないか。

Ⅲ. パロとの2度目の対決（7 : 8～13）

1. 杖が蛇に変わる奇蹟
 - (1) モーセとアロンはパロのところに行き、【主】が命じられたとおりに行った。
 - (2) モーセが命じ、アロンが杖をパロと家臣たちの前に投げた。
 - (3) それは、蛇になった。

2. エジプトの知者、呪術者も、秘術を使って同じことをすることができた。
 - (1) その秘術は単なる「マジック」ではなく、悪魔的なものであろう。
 - (2) IIテモ3 : 3

「また、こういう人々は、ちょうどヤンネとヤンブレがモーセに逆らったように、真理に逆らうのです。彼らは知性の腐った、信仰の失格者です」

 - ①ユダヤ人の伝承
 - ②ヤンネとヤンブレは、呪術者集団の長である。
 - (3) サタンも奇蹟を行うことができる。
 - (4) 「しるし」のコピーを作り出すことが何度か繰り返される。
 - ①7 : 22 「ナイルの水」
 - ②8 : 7 「かえる」
 - ③8 : 19 「ぶよ」の奇蹟は出来なかった。「これは神の指です」

3. しかし、アロンの杖が彼らの杖を飲み込んだ。
 - (1) これは、神の力がサタンの力よりも強いことを表わしている。
4. パロの心はかたくなになった。
 - (1) 【主】がおおせられたとおりであった。
 - (2) モーセは動揺しない。

結論： このメッセージは、私たちが新しい信仰の次元に飛躍するためのものである。

1. 信仰の危機の本質を理解する。
 - (1) 戦後の日本の教会
 - ①マッカーサーが5000人の宣教師を要請した頃
 - ②経済成長とともに、教会成長の力は消えて行った。
 - ③現在の日本の教会には、閉そく感が漂っている。
 - (2) 教会難民の存在
 - ①各種調査によれば、日本の教会数、礼拝出席人数は減少している。
 - ②個人的な感想では、クリスチャン人口は増えている。
 - ③教会難民の存在。
 - (3) 団塊の世代の憂うつ
 - ①青年時代の信仰を忘れている。
 - ②いわば、ミデヤンの野の羊飼いに戻っている人々がいる。
 - ③彼らは、飛躍のきっかけを探している。
2. 神の力を体験的に知る。
 - (1) 自分の期待（予測）から神の計画へと視点を変える。
 - (2) みことばの約束、信頼、実行、体験という順番が大切である。
 - ①信仰を持った初期の段階で、この順番を学ぶ必要がある。
 - ②その逆はあり得ない。
 - (3) 聖書の例
 - ①ガリラヤ湖畔の弟子たち（ヨハ21章）
 - ②コリントでのパウロ（使18：9～11）
3. 悪魔との戦いの本質を知る。
 - (1) 奇跡を判定する基準は、神のことばと一致しているかどうかである。

①申13：1～5 しるしや不思議を吟味せよ。

②申18：15 「私のようなひとりの預言者」とは、メシアのこと。

③申18：20～22 真の預言者を見分ける方法

(2) 終末時代、反キリストが現われ、奇蹟によって人々を惑わし、礼拝を要求する。

①Ⅱテサ2章には、「不法の人」の出現に関する預言がある。

②黙13章には、「海から上がってくる一匹の獣」に関する預言がある。

③奇蹟を吟味する力を養う必要がある。

4. 以上の結論を可能にする秘訣は、聖書研究である。